

令和2年9月24日

二宮町教育委員会議録

(定例会・臨時会)

二宮町教育委員会

- 1 開会時間 9時 30分
- 2 閉会時間 11時 32分
- 3 教育長名 森 英夫
- 4 署名委員 渡辺 優子
- 5 教育長及び委員

出欠席	職名	氏名
○	教育長	森 英夫
○	教育委員 教育長職務代理者	山内 みどり
○	教育委員	岡野 敏彦
○	教育委員	渡辺 優子
○	教育委員	野谷 悦

- 6 出席者氏名
- | | |
|----------------|--------|
| 教育部長 | 黒石 徳子 |
| 教育総務課長 | 下條 博史 |
| 生涯学習課長 | 小笠原 純二 |
| 教育総務課長代理 | 田中 明夫 |
| 教育総務課指導班長 | 境野 朋美 |
| 教育総務課教育総務班長 | 岩崎 稔史 |
| 教育総務課教育総務班主任主事 | 渡邊 一充 |
- 7 傍聴者 なし
- 8 調整者 教育総務課教育総務班主任主事 渡邊 一充

1 開会宣言

(教育長) 令和2年度9月定例教育委員会議を開催します。

2 署名委員の氏名

渡辺委員を指名する。

3 教育長事務報告

(教育長) 教育長事務報告を資料に基づいて行う。

(教育部長) 9月政策会議報告を資料に基づいて行う

(各課長) 各課の事務報告・事業予定について資料に基づいて説明する。

○(山内委員) 人々が押し込められた所ですごく閉塞感があって、本当に毎日毎日楽しみのない暮らしが続いています。特にご高齢の方々の楽しみとか、お互いの安否確認とかいうことが今できていない状態です。半年経ったところで、皆さん気持的にも疲れてきていらっしゃると思います。疲れている、生活が楽しくない、本当にどうしよう、というようにだんだん暗く落ち込んでいってしまわないか心配しています。ですが、移住者の呼び込みと言う意味では今がチャンスだと私は思っています。仕事をテレワークにして東京・横浜の方から引っ越してくるにはここはちょうど良いし、これからの暮らし方にマッチする町だと思います。外から人が入ってくる時期になってくると思うし、なってきた欲しいなと期待しています。そういうときにやはりこの町の売りになるのは何かというと、活発な文化芸術活動が行われていますよということと、教育に力をいれていますよということを魅力にできればいいなと思っています。コロナ禍の中、くすんだ灰色の世界の中でも文化芸術がなされているのは、とてもいいなと思っています。文化祭も美術系の作品で色々出してくださっていますが、とりわけいいと思うのは、ふたみ記念館を利用した子どもたちの作品展です。子ども達も体育が得意な子もいれば音楽が得意な子もいれば美術が得意な子もいます。それぞれの活躍の場として、このコロナ渦をチャンスにして発表できるというのがすごくいいことだと思っています。そういう中で、ラディアンのホールの制限が300人に増えたというのもとてもいいと思っています。531人の客席で300人というのは50数%あまり。9月19日から、クラシックとか静かな音楽とか演劇とか、飛沫の恐れのない催しは一応100%収容しても良いという動きになってきていますよね。ですからラディアンの方も、もちろん状況を見ながらですけども、収容人数を緩和して頂ければと思います。対象のものを審査してもいいと思うんですけども、内容によってできるだけ客席が活用できるように、という方向で進んで行っていただくことを希望します。

○(教育長) ありがとうございます。報告協議事項の中でもそれに関したものがありますのでまたそこでも触れたいと思います。

○(渡辺委員) 色々学校の行事が始まってきますが、体育祭や文化祭は保護者のみの参

加でしょうか。来賓については今年はお断りすることになりますか。

- （教育総務課長）　そうです。
- （山内委員）　知り合いの方のお子さんが、教室の中で熱中症にかかったという話を聞いたことがあります。山西小学校学校の4年生なのですが、お父さんがおっしゃるには、エアコンをつけていたけれど窓を開けていたから熱中症になったということなんだそうです。私は、こんな状況なので、エアコンを点けつつ窓を開けて換気をするべきなんですよとお答えしたんです。ところが7月に小学校中学校を拝見させていただいた時には、各校でどうやって換気をしていくかという決まりがないようでした。窓を開け放してエアコンを点ける、換気プラス冷房ということでやっている学校もあれば、生徒が体育館とか音楽室とかで授業を受けている間は電気が無駄といってエアコンを切る学校もあるようです。私はそんな時こそ換気をするべきだと思います。先日の校長会の中で感染症のお話があったと思いますが、その辺の統一性について、そういう時のルールみたいな、決め事があるのでしょうか。
- （教育総務課長）　エアコンをつけながら換気をするということ以外は明確なものはありません。実は他の小学校でも保護者から、うちの子供が熱中症気味になった、という話は聞いています。よくよく聞くと、教室内でうまく冷えない位置ができてしまうようです。その話を聞いてから、エアコンもつけながら扇風機も回して空気を対流させるように伝えています。また、給水タイムを設けているのですが、なかなか水分補給の大切さが一年生の子どもには分からないところもあるようで、その熱中症気味になったお子さんは水筒の中身を残していたそうです。給水の大切さを呼びかけながら扇風機を一緒に回すよう指導をして下さい、と私から各校長にお願いした経緯はあります。これはもうちょっとルール付が必要かと思います。
- （教育長）　ルールということで今課長が申し上げましたが、『学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル』というのが文部科学省から出ており、これが今 ver. 4 まで出ています。試行錯誤を繰り返してその都度改定していて、学校としてはこれに沿ってその都度管理の仕方を変更しています。何が一番良くて何が悪いというのが先生方も各校長先生たちも、また私たちも判断に悩むところです。ただ、このマニュアルに沿うのであれば、例えばこまめに換気をしましょう、ということであって、開けっ放しにしないではいけないとは言っていないんです。ただ学校としては、換気も大事だからということでドアを開けたりして色々な工夫をしながら対応しているところです。先程校長先生自ら消毒をしているという例も出ておりましたが、先生方もどこまで消毒をしなくてはいけないのか、そういったことも考えている最中だと思います。ただ、一時期、感染症がある程度収まりつつあった辺りで、学校からもう消毒をしなくていいのではないかと言われた時期もありました。毎日毎日疲弊している。しかし教育委員会側としては、スイッチとか手すりとかドアノブとか机とか、とにかく子どもたちが頻繁に触るところは消毒を必ずしてくださいと回答しました。このマニュアルの全てのことを完璧にこな

すというのは非常に大変ですけれども、できる限りこれに沿って先生方が努力している、というところですよ。

- （山内委員） ありがとうございます。そのマニュアルがあると思うのでそれに沿ってと言うことで保護者の方にもお伝えできます。具体的にはどうするかというと、今のお話だと、換気はずっと開けっ放しでないということですが、これからの季節、暖房もエアコンでするのでよね。やっぱり寒くなると窓を開けなくなってしまうという方向になるかなと思いますので、30分につき5分開けるとか、二宮ではこうしようねっていうのでいいと思うので、それを決めて校長先生からも各担当の先生に言っていただければと思います。私の勤め先の東京の音楽大学は毎月毎月新しい策を打ち出しています。最初は60分の授業時間のうち10分は必ず換気するという数字が出されたんですけど、なかなかそれも続きません。そうしたらキッチンペーパーと消毒液を用意して自分が触ったドアノブや楽器は自分で消毒しましょう、という目新しい策を、マナーにならないように打ち出しています。半年も経ちますとどうしてもだれてしまいますからね。二宮はまだクラスターなどでいていないので気を引き締めて、具体的にそういうことを決めていっていただきたいかなと思います。

4 付議事項

特になし

5 報告・協議事項

(1) 二宮町教育委員会点検及び評価報告書(案)について

(教育総務班長) 二宮町教育委員会点検及び評価報告書(案)について資料に基づいて説明。

○（岡野委員） 色々検討していただいてありがとうございます。第三者からのコメントをいただくというのもあると思うのですが、最終的には町民の方にも理解していただくというのがありますし、ある程度の予算を投入しているがゆえに、その成果があったかというところが一番ポイントだと思います。基本的には評価がAになるよう我々は活動していますが、どうしてもAに届かなかった部分が要所要所にあると思います。そういうのを正確に客観的に判断していただきたいと思います。Aを目指すのは当然だとして、結果としてBになってしまっても、だからこの事業は駄目だった、という結論には直結はしないと思います。大切なことは、なぜBになったかという原因が分かっていることであって、それに対策を打てればいいと思います。なので、その視点で我々の活動を振り返ってみて評価していただければいいと思っています。

○（教育長） 教育委員の活動について、評価期間は令和元年度の分ということですか。

○（教育部長） 令和元年度の活動を評価しているものなので、教育委員さんの活動も元年度のもので。

- （岡野委員） どの期間の活動を評価しているのかが分かりづらいですね。
- （教育部長） 平成 31 年・令和元年度事業分と表紙には一応書かせていただいておりますが、この辺の評価の時点が分かりづらいでしょうか。
- （岡野委員） どこかに評価の対象期間が書いてあるといいと思います。次回の定例会で時間をとってもう一回深く議論するというのでいいでしょうか。
- （教育総務班長） よろしくお願ひします。

（2）新型コロナウイルス感染症対策に係る生涯学習課所管施設の今後の対応について

（生涯学習課長）新型コロナウイルス感染症対策に係る生涯学習課所管施設の今後の対応について資料に基づいて説明。

○（教育部長） 補足があります。先ほど山内委員さんからご意見をいただきましたが、これについては9月17日に行われたコロナウイルス対策本部のほうで、町全体としての方針を示しています。山内委員さんも言われたように国はクラシック等のコンサートについては、100%に近い形で入れてもいいという流れがあります。町としては、100%までいくのかは分からないですが、状況を見ながら緩和していく方向で考えたいと思っています。

10月とか11月に入りましたら町の中でまた状況を見て検討して、1月以降どうするかを対策本部で詰めていくという状況になっています。とりあえず現在、収容人数を50%に制限ということについては、12月まで進めているということでご理解いただければと思います。

○（教育長） 施設利用料の減免についてですが、人数緩和については国のほうも言っていることですが、減免については言っていないんですね。近隣地域を調べたのですが減免や優遇措置をしているところはひとつも無いんです。二宮町は独自で減免について進めようとしているのですが、町民センターや防災コミュニティーセンター等の施設は条例等を稟議していますので、あくまでも検討を実施する予定、ということで教育委員会の中ではご了承いただければと思います。ただ方向としては部長が話した通り、対策本部会議でも承認されておりますので減免さらに人数緩和、年度を越えたところでは密になったり飛沫の飛ばないオーケストラ等はまだ緩和できるようなになるかもしれません。

○（山内委員） 来年東京でオペラをやるので、東京にあるラディアンと同じくらいの規模のホールを色々調べるんですが、どこも減免などをしていないので二宮はすごい、嬉しいなと思っています。いつまで、とお聞きしたいところだったんですが、今部長さんからあったように10、11、12月とやってみて様子を見て決めていくということでしょうか。

○（教育部長） 減免はまだ続くと思います。人数緩和は12月で様子を見て年明けから状況がよければ100%に近い形というふうに見直ししようと思いますが、減免は当面続くという形です。

○（山内委員） その3ヶ月期間に予約した人が対象ということでしょうか？

○（生涯学習課長） ご使用になる方について減免するということになります。すでに予約をいただいている団体については、今こういう方向で進んでいます、という情報提供を先にさせて頂いております。収容人数についても、10月に入ってすぐにイベントを予定されている団体の方もいましたので、100人と申し上げていましたが、首尾よく事が進めば300人まで入れられますのでそちらのほうも検討して下さい、という情報提供をしている状況です。

○（山内委員） 嬉しいと共に危険性を孕んだ策だと感じています。人数が少なくなったとしても安く使えるという事はハードルを下げて下さっていてとてもありがたいのですが、先の見えない展望の中でどこまで続くのか。なにかイベントをするときは予算を組むわけです。何百人の収入でチケット代がいくらだから、という予算でやっていくところが、イベントを行う側にしても、ホール代だとか、施設料がいくらくらいになるのか、その時になってみないと分からない。安くなれば嬉しいですが、元の値段に戻ってしまう可能性もあるわけですね。そうしますと、打ち出し方に余裕を持って、そのときそのときで対応して、その時の世情にあったものでいきたいと思えます。この値段でやっていけるんだ、というような印象を受けると、今までは高かったんだなというだけで終わってしまうような方も多いと思えますので、今は減免しています、ということを中心に押し出しておいた方がいいと思えます。もともとラディアン等町の施設はそんなに高いものではないので、やはりそこは、本当はこの額が必要なので施設料を戻しますよという、そういうニュアンスを入れた打ち出し方はいかがでしょうか。

○（教育長） 例えば声を出さないオーケストラだと100%収容してしまうと、減免の必要がないという事ですか？

○（山内委員） 今回、国で打ち出されたものによれば、観客が声を出さなければ、という条件付きですね。コーラスが歌わないのではなく、観客が声を出さなければ。若者がやっているみたいに立って騒いだりとかではなく静かに座っているのなら100%収容可能に、19日からなったということです。

○（教育長） そうすると減免する必要がないということになってしまいますか。

○（教育部長） 先ほど減免は当面と言ったのですが、100%に観客が戻れば減免はなくなるということです。減免は、町ですから年度とか年内という区切りなので、年度末、3月末で一区切りになると思われれます。ただ、なかなかコンサート等の区分けが難しいと思えますので、やはり人数の緩和と減免の終了は一緒になると思えます。ここまでは減免もするし、100%近くなったとしても減免はするというように、少し緩和もするということになると思うんですが、4月以降は一斉に減免なしで100%入れるという感じになるかと思えます。

○（山内委員） 減免の意味は客席が少ないから、ということですね。

○（教育部長） そうですね、収入が少ないところで使用料をいっぱい貰っちゃったら、というのがありますから。皆さんそういう計画がありますので、お知らせは対策本部の方で早目にしないとイケないと思えます。

- （山内委員） いつまで、ということを見直す期間といいますか、すでに 100%入れているところなどもあるので。下げますよ、とばかり言って喜んでしまうと、戻った時のブーイングも出てくるかなという気もします。
- （教育部長） 町としても、下げるとしてもある程度の期間は設けないとその辺のことがあるので、なるべく早めに次の方向は考えます。
- （山内委員） 例えば3ヶ月とする、とか、3月末とするとか、おしりを決めるといいと思います。
- （教育長） 当面3月までは、など、目安が分からないとですよ。

（3）令和3年成人祝賀会について

（生涯学習課長） 令和3年成人祝賀会について資料に基づいて説明。

- （教育長） 令和4年から成人が18歳となるので、成人式という名前自体を検討しないといけません。今回はまだそれでいいのですが令和4年のところをどうするかをもう少し詰めないといけません。一応町としては20歳の枠のところまで今まで通りやっていくという方針を出しているのですがそれはいいのですが、成人という、名前の部分を早めに検討していければと思います。

（4）その他

（野谷委員） 教育総合展出張報告について資料に基づいて報告。

- （岡野委員） 私もすごく行きたかったのですが、仕事の都合で行けませんでした。今回のように、ある業界に特化した展示会は年に何回かやっているはずなんです。いわゆるベンチマーキングと言われている活動があります。業界の動向あるいは異なる業界が教育界に与える影響を捉えておくことは必要なことだと思います。学校の中の活動だから、どうしても他の学校を見本にしたくなってその例を調べることが多いと思いますが、外から学校を見た時に、どのようなアクションがとられているかを知っておくことはすごく大事な事かなと思うので、機会があれば、このようなイベントにどんどん行くべきかなと思います。今回野谷先生に行っていただいて、色んな情報を教えて下さったのすごくありがたいなと思いますし、あるいはこういうところで話をする人がどんな視点でどんな内容を話すのか、そういうことを知っておくのは大事な事かなと思うんです。例えば自動車を作るのに自動車のことだけ考えていてもいい自動車なんか作れないんです。なぜなら世の中の価値観が今までと違ってきているからです。食品業界とかファッション業界、あるいはテレビとかメディア関係の情報、流行とかそういうのを調べたりします。車を作るにあたっては車業界以外の動きもしっかりと掴んでいないと、ニーズに合った車なんか作れなくなってきているので、教育も同じ構造なのかなと感じることは多分にあります。なので機会を作っていくというのはみんな情報キャッチしていくこと、アンテナを高く広く立てていくことが必要なのかなと思います。先ほどの点検評価のところにも関わるかと思うんですけど、今学

校の中で起きていることを、問題を解消するとか、これから起きることを予測して先手を打っておくとか、そういうことも必要だと思っていますけど、将来の構想を作る時は、ベンチマーキングをして世の中の動きを的確に捉えておくというアクションがどこかに必要なのかなと思います。もっと言うと点検評価の1ページに加えてもいいくらいの内容なのかなと思うので。そんな意識を持っていくといいのかなと、この展示会の事を通じて感じました。

○（教育長） ICTを進めるのはもちろん必要なことで、世の中のアイテムとしてずっと使っていくものですが、使う側が言語を正しく理解していかないとはいけません。プログラミング教育の基本である言語をまず理解して、どういう指示を的確に順序立てていくかというのがまず大事です。自分が思ったことを実行するためには、言葉をしっかり理解して使えるようにならないといけない、ということ鈴木寛さんも言うておられました。子供たちが言葉のどの部分が苦手かという、接続詞や助詞などの使い方が非常に分かっていない。単語は分かるのだけどその使い方が分からない。テストの問題文を読んでも答えられないのは、Aがあって、Aを除く、とかAをもとに、とかそういった接続詞や助詞等の使い方を正しく理解できない。その為のリーディングスキルテストというものがあるそうで、そのテストでは各学校の学年ごとに、どういう段階の子供たちがどの辺りの言葉を理解できてないか、しっかり分かるのだそうです。若干費用がかかるのと、二宮町では英検を使っているので、導入については思案中です。また相談することがあるかもしれませんので、リーディングスキルテストについては、ちょっとお耳に入れていただければいいかなと思います。

○（教育総務課長） 1点目、インターホンは抜本的な改善がなかなか難しいところがあります。ICT 支援員についてですが、交付税措置されてはいますが財源が紐付けされておらず、予算措置は難しいのですがゼロではありません。4校に1人ずつの配置はできていませんが、タブレットを320台導入したときに毎月各校に1日ずつ年間12日分、5校で年間60日、その派遣ができるほどの予算化はしてあって、現実的に二宮西中学校では活用していただいています。4月からICT 支援員が順次入っているのですが、先生方が忙しく、なかなか支援員を呼んで色々やっていただく時間が取れないようです。こちらで支援員の申込書を作ったりして、使って下さいと言っているのですが。二宮西中学校の取組をどんどん紹介して行って、他の学校でも、ICT 支援員を活用してもらえればと思っています。あともう1点、岡野委員さんのおっしゃったことで、エキスポに関しては情報提供をいただいている、ぜひ参加したかったのですが、一学期にできなかった健康診断が毎日入っていて、その対応で参加が難しかったです。少なくとも私は次回機会があったらぜひ行きたいと思っています。

○（教育長） ICTとはずれるかもしれませんが、前回の校長会の中で、360度動くカメラを使って、子どもたちが教室に居ながらにして工場見学などができるシステムについて提案をしました。二宮町にそのプログラムを作っている方がいて、その方が花王との連携があって、工場見学を勧めて頂いたこともあったのですが、二宮町は今までずっと日産の工場見学をしてきたので、日産から見学に代わるような資料を既に頂いてしまっていたのと、コロ

ナで授業時間が少ない為、工場見学の代替りのものをコンパクトに授業に入れてしまったので、あまり手がまわっていない状態でした。このシステムでは、リアルタイムで学校と企業・工場を繋いで、向こうの状況を、360度カメラを使いながらタブレットで子どもたちが自分の好きなところを見れるような仕組みになっているのだそうです。そんなことをやれるような機会もありますよ、というのを紹介してあります。

○（岡野委員） 一点補足させてください。川崎小学校の例があったと仰っていましたが、youtube で川崎小学校の ICT の内容が公開されていて、そのなかでタブレットの使い方の例が紹介されています。みんなでディスカッションする時、各自のタブレットに書き込まれた画面が大きなディスプレイの画面にまとめて表示されます。他の友達の書き込んだものも自分のタブレットの画面と一緒に表示されます。そうすると、自分の思ったのと違う画面を同時にぱっと俯瞰できるんです。それで何ができるかという、新しいアイデアが出てくるんですよ。これはブレインストーミングとって、アイデア出しの時に使う手法のひとつでもあってかなり実践的な内容なんです。自分はこうだ、と思ってもみんなの意見はぜんぜん違うって思うわけです。そこに新しい気づきみたいなのがあるので。今までと違う、自我の広がりというかアイデアの出し方、頭の回し方というのができる道が開かれると思います。なので新しい使い方、アイデアのスイッチの仕方が今までと変わってくる可能性があるんで、こういうのをちゃんと捉えていくというか、今日の午後の吉新先生の話も多分そういう話にもなるのかなと思いつつ、こういう動画を観ていました。そういうのに使える道具だとか、今までにない色んなアイデアというのもこういう展示会に行くとヒットしたりする可能性も高いので、いろいろ情報収集は必要かなと思います。

○（教育長） 町が導入してるシステムではそういったことは難しいのでしょうか。

○（教育総務課長） G Suite の Classroom というソフトで、1つの紙に皆で書き込んでいくような作業はできるかと思えます。この間、指導主事の方で開催した ICT 研修でそういうデモを先生方でやっています。今日の朝何食べた、なんていうのを皆でそれぞれ書き込んで、それを一つの画面に表示するというのはできるのですが、おそらく岡野委員さんの出された一人ひとりがタブレットで書いたものが一つの画面に分割して出てくる、というものは G Suite ではできないかもしれないです。

○（教育総務班長） 標準の機能ではそういうものはなかったと思うので、オプションで使えるのであればそういうのを活用したり、あと、俗にいう共同学習ソフトと言われている類のものだと思うのですが、他に有償のソフトでそういうことができるものは沢山あるので、そういったところは導入に向けて検討していきたいと思えます。

○（岡野委員） G Suite でできないということは多分ないと思うので探せばあると思えます。

○（教育総務班長） 野谷先生がご用意いただいた資料にもある電子黒板とタブレットを WiFi で繋ぐというのと同じようなことができるもので、それをハードウェアでやるのかソフトウェアでやるのか、いろんなやり方があると思えますので是非参考にさせていただきます。

たいと思います。

○（教育総務課長） 吉新先生は富士通の方からの依頼か何かで一緒にデモでやったんですよね。ソフト開発の中でモデル的にやったような話をこの間先生ご自身がされていたような気がしたので、そんな先進的な話を今日聞けたらいいなと思います。

○（野谷委員） YouTube で富士通が作っている番組があって、それで川崎市の学校を紹介しているので、アドバンテージが川崎市にあったのかなと言う気がしています。

○（教育長） 地元の企業と連携しないといけないですね。

○（岡野委員） 大きなものづくりの生産ラインを見て勉強するということは、それはそれでいいのかも知れないですが、今は時代が変わってきているので、たとえばスマートフォンの生産ラインとか、お菓子とかおもちゃの生産ラインなどを見学するのもいいかもしれませんね。食品の生産ラインなんか技術力満載なので、ああいうのを見るっていうのもすごくいいのかなと思うんですよ。たとえばパンやサンドイッチも、スライスの機械なんてかなり企業秘密が満載です。普通にナイフを入れたってあんな柔らかいパン、スパッと切れないですよ。そして切った面に必ず中の具が全部見えるように配置されてますよね。あれはどうやって並べてるんですかとか、ああいう実践的なことを子どもたちにもものづくりの視点で見せてやるっていうのも、ものすごくいい刺激になるのかなと思います。是非自動車ラインにこだわらずに、そういう体験を広くさせてあげるといいと思います。隔年とか、小学校なら6年間あるから2～3年周期でもいいので食品とか自動車とか、色んな業界をぐるぐる回すというのもいいんじゃないでしょうか。今の時代に合ったやり方を考えていくのも必要なのかなと思います。

○（野谷委員） 自動車工場の見学はとても分かり良いので、非常に子どもに理解させやすい。ただまあ、少し時代遅れなのではないでしょうか。

○（岡野委員） 鉛筆一本とってみても、大きな生産ラインでガンガン作っているわけで。どうやって作っているんだろう、中の芯はどうやって入れているんだろうとか、身近なもので体感する。ペットボトルだってどうやって作っているのか、中のものをどうやって入れているんだろうとか。真空パックとかだって、なんで中が真空なんだとか。氷はなぜ裏側に穴が空いているときれいに作れるんだろうとか。いろんな視点で子どもたちに刺激を与えられることを考えてくださればいいと思います。

－ 次回教育委員会予定 －

（教育総務班長） 次回教育委員会議の日程及び出席を要する主な行事について説明。

11 時 32 分 閉会